

2022年1月11日  
担任 國井和宏



## ★禪を繋ぐ

あけましておめでとうございます。昨年末はクリスマスの集いで、3年1組の素晴らしい合唱を聞いて1年を締めくくることができ、担任としてとても嬉しかったです。現在1月7日(金)午前8時30分ですが、廣瀬先生が撮影した、クリスマスの集いの動画を観て、この通信を作り始めました。私の今年の正月はのんびりと家で過ごしました。元旦の実業団対抗「ニューイヤー駅伝」、そして2日、3日の「箱根駅伝」はお正月の風物詩になっていますが、年始早々、私は家でゴロゴロしながら箱根駅伝を観ていました。今年も白熱した大会で、心の中で「がんばれ!!」と何度も叫んでいました。最終的には青山学院大学の総合優勝となりましたが、2位に10分以上の差をつけての圧倒的な強さで幕を閉じた大会でした。

東京と箱根を往復する箱根駅伝は、1917年(大正6年)、東京一京都間516キロを23区間に分けて、3日間昼夜走った禪リレー「東海道駅伝徒歩競争」というものが原型だそうです。この成功に意を強くした日本の陸上競技の先駆者で日本人初のオリンピック出場者である金栗四三さん(NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公)が大学や師範学校に参加を呼びかけて創設したのが箱根駅伝です。

駅伝は日本発祥の陸上競技で、「ekiden」は国際語です。箱根駅伝の1区間20キロはマラソンの42.195キロの半分、ハーフマラソンとほぼ同じ距離を走るようになりますが、マラソンと根本的に異なる点、それは駅伝は個人競技ではなく団体競技であるということです。マラソンは自分との闘い、自己責任の世界です。ところが駅伝は禪をつなぐことに大きな意味があります。体力、精神力に限界が来てもなかなか途中棄権ができません。棄権は自分の問題ではなく、チーム全体に関わることです。走者にとっての重圧は相当なものがあります。ふらふらになりながらも、仲間のために禪をつなぐ、そんな熱いシーンにはテレビを観ていて、ぐっとするものがあります。

禪には選手全員と、それを支えてきたスタッフ、関係者、OB等々すべての人々の熱い思いが込められています。禪を繋ぐことはそれらの人々の心を繋ぐことであり、過去、現在、未来を繋ぐことでもあるように感じています。

さて、今年は中学生から高校生になる大きな節目の年になります。高校進級を目前にした今のみんなにとって、「今の自分から未来の自分へ」禪を繋ぐため、最後の力を振り絞るのが残りの中学校生活の時間となります。気持ちを引き締め、学業に励む。高校生の自分に、しっかりと禪を繋いでほしいと思います。

## ★面接練習、スタートします!!

高校進級面接が1月20日(木)から始まります。それに向けた練習を今週から行います!!みなさん、家での面接練習は行いましたか?私は毎年高校3年生の大学推薦入試の面接練習をよくお手伝いします。何度も何度も繰り返し練習をしていくことで、はじめの頃とは見違えるほど、気持ちを込めて、流暢に話せるようになっていく先輩たちを多く見てきました。話すことが苦手な人も、まずはしっかりと練習をすることです。頑張りましょう!!

